

徳島市における南海トラフ地震の影響を受けにくい映像情報伝送システムの実証

(南海トラフ地震の初動の動きをWi-Fi HaLowとカメラ、RTK-GNSS搭載ドローンを併用した多層的な連携モデルで迅速かつ正確に行うDXで徳島市の課題を解決する)

地域課題と 目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 徳島市の災害情報の収集手段は、主として電話、FAXによる音声・文字情報であり、現場の状況を広く正確にリアルタイムに把握することが困難であり、災害応急対策の初動に困難を来す状況にある。 南海トラフ地震の影響を受けにくい映像情報伝送システムを実装することで津波災害における「死亡者ゼロ」に貢献する。 		
実施体制 (下線：代表機関)	<ul style="list-style-type: none"> 徳島市危機管理局、株式会社サーベイ、徳島大学、ケーブルテレビ徳島、MMラボ、塚原税理士事務所、PANDA合同会社 	実施地域	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県徳島市

実証の概要



- Wi-Fi HaLowとカメラ、RTK-GNSS搭載ドローンを活用した多層的な連携モデルにより、徳島市における南海トラフ地震の影響を受けにくい映像情報伝送システムを実装し、死亡者ゼロを目標にする。

実装に 向けて 達成すべき 項目

- ①Wi-Fi HaLowとドローン自動航行PKGの製品化
- ②映像情報収集分析等を行うプラットフォームの構築
- ③運用体制の構築（技術支援、パイロットの紹介・育成、プラットフォームの提供）



実証成果・実装移行のハードル

実証 成果	<ul style="list-style-type: none"> ドローン発進までの時間5分以内であることを確認 検索エリアである徳島市沿岸部まで10分以内で到着 被災者発見までの時間を離陸後24分以内と確認
実装移行 への課題	<ul style="list-style-type: none"> ①ドローン：allプログラミング航行の達成と未実装機能（ハンドオーバー機能）とDuty制限への対策 ②映像伝送システム：情報収集と共有・分析のSIとその選定 ③各種機能を達成する企業とメンバーの選定

実装・展開のスケジュール

